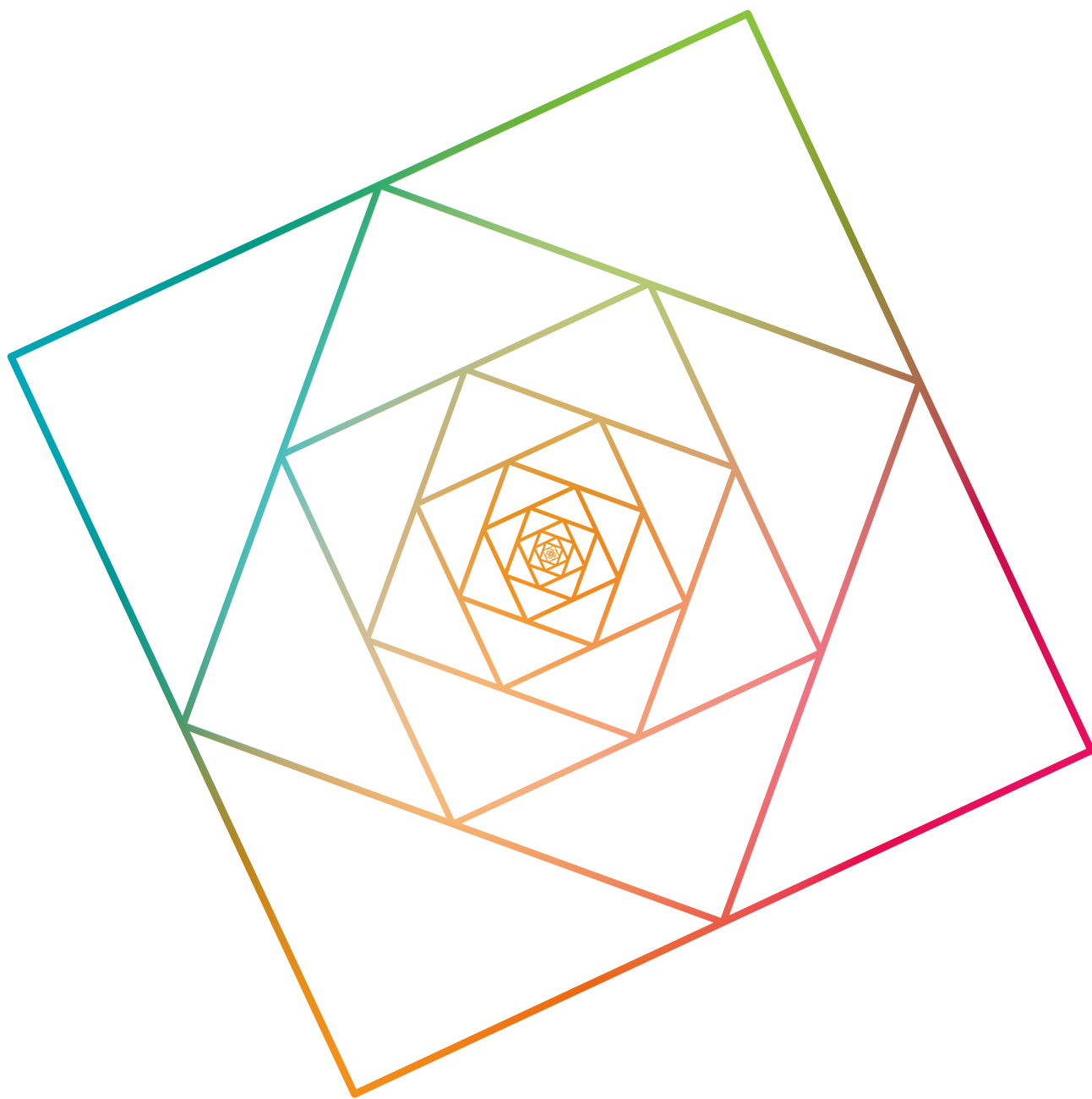




協 会 案 内



公益財団法人
日本数学検定協会
The Mathematics Certification Institute of Japan

ごあいさつ

公益財団法人 日本数学検定協会

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大(以下「コロナ禍」)にともない、学校では、臨時休校、変則的な登校などを余儀なくされるなど学びの環境が急変しました。教育現場では、学びの「取り戻し」や「質の確保」に向けてさまざまな工夫がなされてきました。関係のみなさまのご尽力に敬意を表します。また、教育現場がこうした営みに注力できた背景には、医療従事者をはじめ、エッセンシャル・ワークに従事されるみなさまの献身的なご協力がありました。あらためて感謝申し上げます。

公益財団法人日本数学検定協会(以下「当協会」)でも、コロナ禍のなかで、たとえば、実用数学技能検定(以下「数検」)において、検定の延期、変則的な対応を余儀なくされ、ご迷惑、ご心配をおかけしました。お陰様で、8月検定以降では、コロナ禍のなかでありながら、一昨年とほぼ同じ志願者数となりました。受検者のみなさまの算数・数学の学びに対する旺盛な意欲と飽くなきチャレンジ精神に、あらためて敬意を表します。このことは、当協会の社会的な使命を再認識させていただく重要な機会となりました。また、with/post コロナに向けて一層研鑽に励み、みなさまのご期待にお応えしていくことについて、決意を新たさせていただく機会ともなりました。

今、Society5.0時代が到来しつつあり、そこでは、AI(人工知能)、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、ロボティクスなどの先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられる社会に変貌し、社会のあり方そのものが、これまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生まれると言われています。そこでは、将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを創出したり、これまでのモデルを柔軟に改変したりすること、すなわち、DX(デジタルトランスフォーメーション)が喫緊の課題とされ、DXを支える人材を育成すること、データサイエンスや数理科学についての素養、すなわち、リテラシーを、広く国民の教養として培うことが強く要請されています。大学教育では、データサイエンスに関わる授業科目を、国の規定する枠組みに基づいて各大学が設定し、理系・文系の枠を超えて、すべての大学生が学ぶことが義務づけられようとしています。算数・数学の学びは、このリテラシーを支える重要な基盤となることは間違いありません。それは、算数・数学についての知識や技能を身につけ、それらを活用して問題解決をすることにとどまるものではありません。「学び」の基本を実体験し、ものごとを考えたり、説明したりすることはもとより、情報と賢く対応する基本的な構えも鍛えられることになるでしょう。

コロナ禍のなかで、子どもたちに、学校や教師からの指示・発信がないと「何をして良いか分からず」学びを止めてしまうという実態が見られ、「学びにおける自立」における課題が顕在化したとされています(中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築」(2021.1)、以下、答申)。そして、「多様な子ども1人ひとりが自立した学習者として学び続けていけるようにすること」の必要性が指摘されています。受検者のみなさまは、算数・数学の学びにおいて、「学びにおける自立」を成し遂げられており、頼もしく思います。みなさまは、算数・数学の学びは「楽しくておもしろい」「可能性を広げてくれる」「夢や願いをかなえるために必要である」など、学ぶ目的や動機を自覚され、学び方や自己調整しながら学びを継続していく力をしっかりと身につけています。学びについての基本的な構えは、不確実性や複雑性が一挙に進み、これまでの日常との非連続な事態が生起すると言われる社会で、冷静かつ果敢に課題に挑戦する際に基盤として働くものとして重要です。「SDGs(持続可能な開発目標/2015年設定)」やSTEAM教育を巡る世界的な動向を踏まえ、小中高の教育では、教科等横断的な学びを一層充実させ、その成果を各教科の学びに還元することにより、学びへの意欲を高めることが期待されています(答申)。このことに応えるものともなるでしょう。

当協会では、受検者の多様なニーズの的確な把握と全世代への対応、AI時代を見通した新たな学びの枠組みの提供、これまでに蓄積したビッグデータの活用などに取り組んでまいります。引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、ご挨拶とします。

(2021年4月)

理 念

信頼性と有用性が高く、学習指針として広く認められる数学に関する検定事業を実施し、
得られた知見を社会に還元することを通じて、
世界中の人々の生涯にわたる数学への興味喚起と数学力の向上に貢献する。

ビジョン

協会の理念を実現するためには、日本国内のみならず国際社会においても
中長期的に検定事業を発展させる必要があり、以下の3つのビジョンを掲げて事業を推進しています。



数学の生涯学習化

実用数学技能検定「数検」の受検者数は日本の数学人口を捉えるうえで重要な指標であることを認識し、受検者数50万人の達成をめざすとともに、老若男女問わず数学を学ぶ環境を構築していきます。



数学学習のデファクトスタンダード化

日本で培ってきた検定事業の知見を還元し、フィリピンやカンボジア、タイなどのアジア諸国を中心に Suken を実施し、数学学習のデファクトスタンダード化をめざします。



数学嫌いをなくし、数学好きを増やす

算数・数学に関するコンテンツやイベントなどとおして算数・数学の良さやおもしろさを伝え、算数・数学嫌いをなくし、算数・数学好きを増やす取り組みを進めてまいります。

公益事業活動

より多くの方に算数・数学の魅力や学ぶことの有用性をご理解いただくため、
おもに5つの公益事業活動を展開し、取り組んでいます。





数学検定事業

数学・算数の学習成果を評価・顕彰する生涯学習の場を提供しています。

数学検定 算数検定

「数検」の概要

実用数学技能検定「数検」(後援＝文部科学省。対象：1～11級)は、数学・算数の実用的な技能(計算・作図・表現・測定・整理・統計・証明)を測り、論理構成力をみる記述式の検定で、公益財団法人日本数学検定協会が実施している全国レベルの実力・絶対評価システムです。



■ 階級の構成

おもに、数学領域である1級から5級までを「数学検定」と呼び、算数領域である6級から11級、かず・かたち検定までを「算数検定」と呼びます。

また1～5級には、計算技能を測る「1次：計算技能検定」と数理応用技能を測る「2次：数理技能検定」があり、初めて受検するときは、1次・2次両方を受検します。6～11級、「かず・かたち検定」には、1次・2次の区分はありません。

階級	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	11級	ゴールド スター	シルバー スター
目安となる 学年	大学 一般	高校 3年	高校 2年	高校 1年	中学校 3年	中学校 2年	中学校 1年	小学校 6年	小学校 5年	小学校 4年	小学校 3年	小学校 2年	小学校 1年	幼児	
名称	数学検定							算数検定						かず・かたち検定	

■ 受検資格

原則として受検資格を問いません。

※ただし、時代の要請や学習環境の変化などにより、当協会が必要と認めるときはこの限りではありません。

■ 受検方法

「団体受検」「提携会場受検」「個人受検」の3つの受検方法があります。

【団体受検】

学校・学習塾・企業などで受検する方法です。

【提携会場受検】

当協会と提携した機関が設置した提携会場で受検する方法です。

【個人受検】

全国47都道府県の主要都市に当協会が設けた個人受検会場で受検する方法です。

■ 階級別受検者数の割合と合格率

名称	数学検定							算数検定							かず・かたち検定	
階級	I級	準I級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	11級		ゴールドスター	シルバースター
合格率(%)	7.1	20.2	31.4	46.3	66.7	72.4	66.9	86.5	82.6	88.3	88.2	94.1	95.3		98.6	98.9
受検比率(%)	0.5	2.7	7.7	15.1	24.9	11.4	9.8	5.3	4.5	4.9	4.4	4.2	3.5		0.8	0.4

(2021年4月～2022年3月受検者データ)

■ 過去5年間の志願者数・実施校数の推移(国内のみ)

第1回を実施した1992年には5,500人だった年間志願者数は、2006年以降は30万人を超え、数検を実施する学校や教育機関も16,000団体を超えました。以来、累計志願者数は700万人を突破しており、いまや数学・算数に関する検定のスタンダードとして進学・就職に必須の検定となっています。

	志願者数(人)	実施校数(校)
2017年度	377,000	18,000
2018年度	376,000	17,600
2019年度	358,000	16,900
2020年度	303,000	16,200
2021年度	354,000	18,000

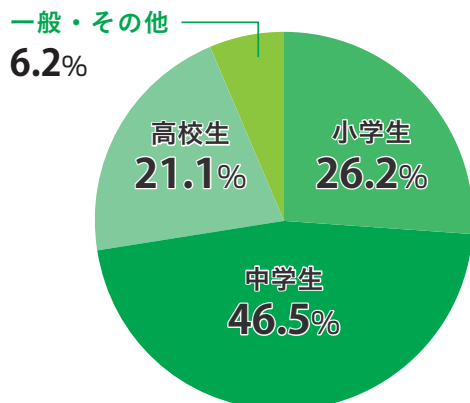
※志願者数・実施校数はのべ数です。志願者数は百の位、実施校数は十の位を四捨五入しています。

※2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響にともない、志願者数の集計方法が例年と異なります。

■ 受検者層の割合

数検の受検者のおよそ9割が小中高生です。

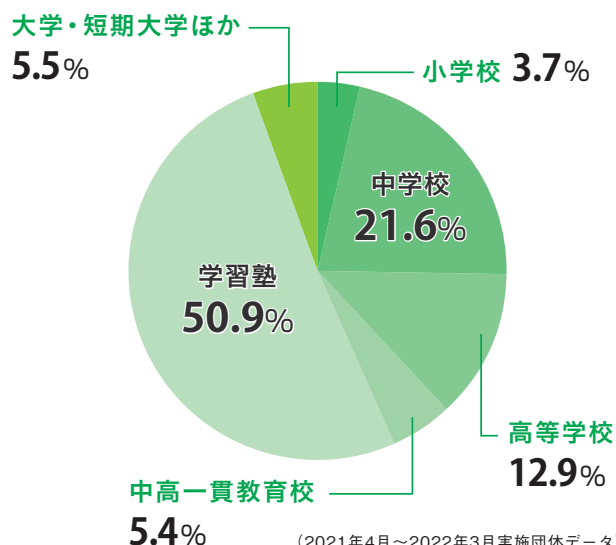
また、小中高生のほとんどが、学校や学習塾などの団体受検で受検しています。



(2021年4月～2022年3月受検者データ)

■ 団体受検の実施団体種別内訳

数検の実施団体のおよそ5割が学習塾です。また、およそ3割が中学校・高等学校です。



(2021年4月～2022年3月実施団体データ)

■ 特長

◎「記述式」の検定

数検の解答は論理構成力をみる記述式なので、解答にいたる過程を正確に伝える力が身につきます。正解に到達していなくても、途中の道筋が正しければ部分点がつきます。

当協会では、「思考力」「判断力」「表現力」を、よりの確に評価するためには、論理構成力を問う記述式の問題、すなわち論述式の問題による評価が必要であると考え、論述式の問題を一貫して出題しています。

◎合格者の顕彰と受検者へのフィードバック

合格者には合格証と合格証明書を、すべての受検者には個別成績票を発行しています。個別成績票には、小問ごとの成績、問題の内容、結果を表すグラフ、評価コメント、成績に応じたチャレンジ問題などを掲載しています。検定結果を合否や正誤だけで捉えるのではなく、出題された内容と照らし合わせて見直すことで、今後の学習に生かすことができます。



◎指導に役立つアドバイスの提供

団体受検で、数検準2級から5級までを実施した団体には、指導者向けに階級ごとの団体別成績票を発行しています。階級ごとに学習の成果や課題が確認でき、今後の学習指導に活用できます。



■ メリット

①入試における活用

入試優遇制度とは、大学・短期大学・高等学校・中学校などの各種入試において得られる、各優遇措置や評価、活用などの制度のことです。入試の際、数検の取得を活用する学校が増えています。

【高等専門学校・高等学校・中学校】

全国 **1,090** 校以上

【大学・短大・専門学校】

全国 **530** 校以上

(2022年7月現在。当協会調べ)

②単位認定制度

単位認定制度とは、大学・高等専門学校・高等学校などで、一定の階級の数検取得者に対して、特定の科目の単位取得を認める制度です。数検の取得者に、数学などの単位を認定する学校が増えています。

【大学・高等専門学校・高等学校】

全国 **440** 校以上

(2022年7月現在。当協会調べ)

③高等学校卒業程度認定試験・ジュニアマイスター顕彰制度・アグリマイスター顕彰制度

文部科学省の行う「高等学校卒業程度認定試験(旧「大検」)」の必須科目「数学」が試験免除になります(2級以上合格)。また、公益社団法人全国工業高等学校長協会主催の「ジュニアマイスター顕彰制度」(3級以上合格)、全国農業高等学校長協会主催の「アグリマイスター顕彰制度」(4級以上合格)で点数化されます。

■ 「数検」グランプリ

実用数学技能検定「数検」グランプリは、積極的に数学・算数の学習に取り組んでいる団体・個人の努力を称え、さらに今後の指導・学習の励みとする目的で、とくに成績優秀な団体および個人を表彰する制度です。毎年、数検を受検された団体・個人からそれぞれ選考します。また、卓越して優秀な団体・個人には「文部科学大臣賞」が授与されます。

◎団体賞

文部科学大臣賞
「数検」グランプリ金賞
「数検」グランプリ奨励賞

◎個人賞

文部科学大臣賞
「数検」グランプリ金賞
「数検」グランプリ会長賞
生涯学習功労賞





ビジネス数学事業

社会・企業と数学との接点を明らかにし、実社会における数学的リテラシーの向上や、企業の効率的な人材育成につなげるため、ビジネスにおいて必要とされる数学の検定およびe-ラーニング・研修などを実施しています。



ビジネス数学とは

「ビジネス数学」とは、ビジネスの場で活用できるような数学的思考力や課題解決力などを身につけるための学習・教育活動です。ビジネスにおいては、高度な数学の内容よりも、まず第一に四則計算や割合・百分率の計算など、基本的な内容を場面に応じて正しく活用できることが重要です。ビジネスの場で求められる数学力は、大きく5つに分けられます。

物事の状況や特徴をつかむ「把握力」、規則性や変化、相関性などを見抜く「分析力」、いくつかの事象から最適な解を選ぶ「選択力」、過去のデータから未来を見通す「予測力」、情報を正確に伝える「表現力」です。これらの力は、ビジネスのいたるところで求められます。重要なことは、ビジネスシーンに潜んでいる数字を見つけ出し、それらの関係性をしっかりと把握し、目的に応じてそれらを組み合わせる思考プロセスを身につけることなのです。



■ ビジネス数学検定

企業・学校開催実績：60 団体 ※2021年度のべ開催実績数

「ビジネス数学検定」はビジネス数学の5つの力の活用能力を測定する検定です。

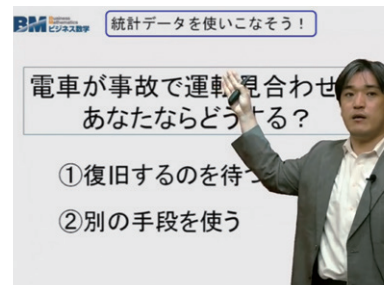
WBT(Web Based Testing)方式を採用していますので、場所を問わず受検者の都合に合わせて受検できます。各階級の認定基準点に到達された方には、オープンバッジを発行いたします。企業の採用試験や管理職登用試験などに活用する事例も増加しています。

階 級	受検対象の目安
3級	学生・新入社員
2級	管理職
1級	データサイエンティスト入門者

■ ビジネス数学e-ラーニング

会場型のビジネス数学講座では「研修に導入したいがスケジュールを調整するのが難しい」「遠方なので会場まで行けない」などの問題が生じていました。この問題を解決し、ビジネス数学をインターネット上でいつでもどこでも学べるようにしたのが「ビジネス数学e-ラーニングコース」です。

スマートフォン、タブレットにも対応していますので、仕事の隙間時間で学習できるのも特長です。また、e-ラーニングで内容を学び、会場型研修でディスカッション&プレゼンテーションを行う反転学習で、ビジネス数学の活用能力を効率よく身につけることも可能です。



■ ビジネス数学講座

ビジネス数学の「5つの力」を向上させるには与えられた問題を解くだけではなく、ビジネスシーンで実践する方法を学ぶ必要があります。ビジネス数学講座は、あるシチュエーションにおいて「何が問題なのか?」「解決するプランは?」「取りうるプランで最適なものは?」「プランを相手に伝えるには?」などをグループワークで考え、現場で使えるビジネス数学の活用能力を磨くことを目的としています。公開型の講座のほか、企業内での研修、大学・専門学校での講義などで活用されています。

2019年度から、企業向け研修については、オルデナール・コンサルティング合同会社に譲渡いたしました。

■ データサイエンス数学ストラテジスト

「データサイエンス数学ストラテジスト」は、当協会が2021年9月に新設した資格です。データサイエンスの基盤となる基礎的な数学(確率統計・線形代数・微分積分など)と実践的な数学(機械学習系・アルゴリズム系・ビジネス系数学など)の2つを合わせて体系化したデータサイエンス数学に関する知識とそれを活用できるコンサルティング力を兼ね備えた専門家として、一定の水準に達した方を認定するものです。中級と上級の2つの階級があります。また資格試験は、5肢択一のIBT(Internet Based Testing)形式で行います。各階級の合格基準に到達された方には、オープンバッジを発行いたします。

未来を支える数学



データサイエンス数学
ストラテジスト

Mathematics for Data Science Strategist

オープンバッジとは?

オープンバッジとは、世界的な技術標準規格「IMS Global Learning Consortium」に準拠し発行されるデジタル証明・認証のことです。世界では、すでに年間2400万個が発行され、資格のほかに免許証や卒業証明書など用途はさまざまに広がっています。オンライン上で公開したり、SNSなどで共有できたりするなど、利便性の高さが特徴です。偽造・改ざんが困難なブロックチェーン技術を応用しており、学習・スキルの証明書として信頼性の高いものとなっています。



▲ビジネス数学検定オープンバッジ(全5種)



▲データサイエンス数学ストラテジスト
オープンバッジ(全6種)



出版物および情報提供事業

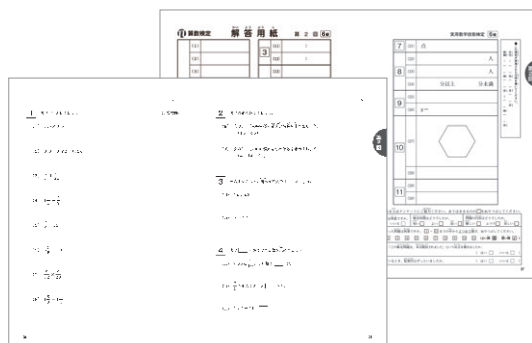
学習者はもとより、広く一般の方々に、算数・数学に関する学習材や情報誌、あるいはインターネットを用いて学習情報を提供しています。

出版物発行事業

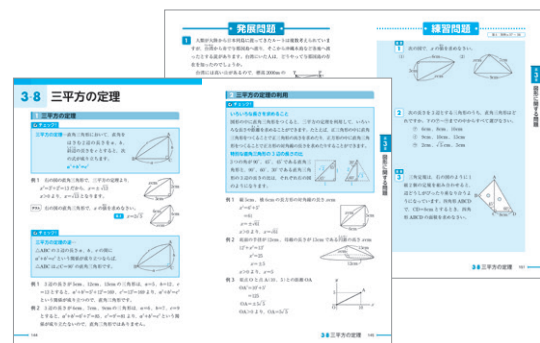
実用数学技能検定「数検」の関連書籍を発刊しています。さまざまなニーズに対応するために、数学の概念を楽しみながら学べる本などの制作や、他社からの出版物の発行にも協力しています。また、WEBアプリケーションの開発やICTを活用した学習コンテンツへの協力などの取り組みを強化しています。

■ 関連書籍

◎協会発行書籍



▲「過去問題集」6級中面



▲「要点整理」3級中面

◎他出版社発行書籍の監修協力

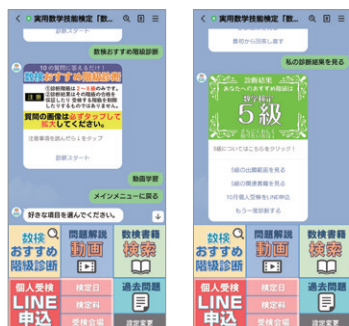


■ その他

◎数検 LINE 公式アカウント

数学・算数に関する学習コンテンツなどが閲覧できる数検の LINE 公式アカウントです。

学習動画や各種情報の閲覧、おすすめ階級診断、個人受検のお申し込みなどがご利用になれます。



◎情報誌マスマスプラス

「マスマスプラス」は当協会が発行している、算数・数学を楽しむための情報誌です。当協会主催のイベントレポートや検定に関するニュース、過去問題と解説などをはじめ、算数・数学に関するさまざまな話題について掲載しています。



◎公式オンライン学習サービス「スタギア数検」

スタギア数検は、当協会と株式会社教育測定研究所が共同で開発した実用数学技能検定「数検」の公式オンライン学習サービスです。小学校3～高校1年生の教科書の内容に対応しているので、検定合格に向けた学習はもちろん、日々の学習にも幅広くご利用になれます。



情報提供事業

おもに数検の個別成績票、団体別成績票を通じて、受検者の答案の採点評価・誤答分析で得られた情報を発信しています。学習者には学習の見直し、指導者には指導の改善に役立てていただいております。また、国内外での算数・数学教育研究などに積極的に参加し、数学の生涯学習の輪を広げています。そのほかにも、広く国民のみなさまに算数・数学を学習する大切さや、楽しさを伝えるコンテンツを提供しています。

■ メディアサイト「ひとふり」

「ひとふり」は、算数・数学を使った毎日の暮らしに役立つ情報を提供するメディアサイトです。毎日の生活をちょっと賢く、それでいてもっと楽しくなるように数学というスパイスを「ふりかける」ということから、「ひとふり」と名づけました。算数・数学を使った日々の暮らしに役立つ話題をお届けすることで、算数・数学をより身近に感じて興味・関心を促すことをめざします。





普及啓発事業

子どもから大人まで、より多くの方が参加できる数学・算数を楽しむ講習会やイベントを開催し、生涯学習の進展をめざして活動しています。

生涯学習普及啓発事業

1年を通して、数学・算数の学習に関する話題を提供するために、大小さまざまなイベントや講座などを開催しています。

■ 数学甲子園

数学甲子園(全国数学選手権大会)は、全国の中学・高校・高専生が団体戦で数学の力を競う大会です。生涯学習の観点から数学を通じて考える力や発想力を高め、教育・ものづくりなどの発展に寄与する目的があります。数学の問題を解く力だけではなく、「問題解決力」「チームワーク力」「創作力」「プレゼンテーション力」など幅広い力が問われます。優勝チームには「文部科学大臣賞」が授与されます。
※2022年度は開催しません。



■ 算額 1・2・3

数学・算数を通じて、考える喜び、問題を解く楽しさを再認識していただくために、江戸時代に庶民の文化だった「算額」を現代に甦らせました。毎年1月23日を「算額文化を広める日」と定め、東大寺(奈良県)に問題を額にして奉納しています。
※2022年度の算額に掲載した問題の解答募集および表彰については、諸般の事情により行いません。



■ 数学・算数公開講座(葛飾区教育委員会共催)

数学・算数を生涯学習として学び続ける社会を支援するため、どのような年齢層の方でも楽しみながら学べる講座を企画・開催しています。

◎算数やり直し講座・数学レベルアップ講座

小学5・6年生にはつまづきそうな単元を克服する講座、中学2年生には数学力のレベルアップをめざした講座です。

◎親子のための算数講座

家庭内の学習環境の向上を目的とした、子どもとその保護者対象の講座です。

◎大人の数学講座

数学の再学習を志す社会人・シニアの方対象の講座です。



国際協力事業

海外の現地の方を対象に Suken を実施し、教員・生徒の数学学習の意欲や学力向上に向けた活動をしています。おもにフィリピンやカンボジア、タイなどで実施し(累計志願者数は 40,000 人以上)、高い評価を得ています。



講師育成事業

数学・算数教育の質を高めるために、数学・算数を指導する講師の育成を支援しています。

■数学コーチャー

地域で数学・算数文化を広めていく人材のことです。「数学・算数を学ぶ人の声を聴き、共に学ぶ」ことを基本姿勢とし、国内外で数学の有用性やおもしろさを広めることを目的としています。

■インストラクター

数学・算数指導のエキスパートのことです。幼児さんすうインストラクター、数学インストラクター、ビジネス数学インストラクターからなり、数学・算数を広く深く教えていくことを目的としています。

その他

■数学・算数イベントの実施

子どもから大人までより多くの方が参加でき、数学・算数を身近に感じられるイベントを開催しています。

- ・ CAREMATH(ケアマス)
- ・ さんすう体感プログラム
- ・ 算数トライアスロン



■他団体とのイベント

日本青年会議所など関係諸団体と連携して、理数教育の充実にに向けた普及推進イベントなどに積極的にに関わり、数学・算数を学習する大切さや、楽しさを伝える普及啓発事業の充実に努めています。



学術研究事業

実用数学技能検定「数検」を中心とした研究および調査を行い、数学の生涯学習の進展に寄与することを目的とした事業です。

学習数学研究所について

学習数学研究所は、当協会における研究の基盤を担い、学術研究事業を推進することを目的として、2016年2月に当協会内に設置された研究機関です。

■学習数学研究所の業務内容

学習数学研究所は、次の事業を行います。

- (1) 数学の生涯学習に関する研究
- (2) 検定に関する研究
- (3) 算数教育及び数学教育に関する研究
- (4) 研究会、講演会等の開催
- (5) 紀要、年報、叢書等の刊行
- (6) その他必要な事業

■研究成果(紀要)

学習数学研究所の研究や活動などを研究紀要として取りまとめ、公式サイトなどで毎年公開しています。



■教員を対象とした講座講習会

これまで、教員免許状更新講習を実施してきましたが、今後は教員を対象とした講座講習会を実施いたします。



■情報サイト「SAME」

「SAME」は、Society (社会)・Arithmetic (算数)・Mathematics (数学)・Education (教育)の4つを融合させた、学習数学研究所が運営する算数・数学教員のための情報サイトです。当協会が30年にわたって培ってきた数学に関する検定事業の実績と知見をわかりやすく伝えることで、教育者、教育の場や社会全体に向けて、“同じ”ように算数・数学の魅力を伝えていくことをめざします。



法人概要

名称 公益財団法人 日本数学検定協会
設立年月日 1999 年 7 月
代表者 理事長 高田 忍
所在地 ■本部
〒110-0005 東京都台東区上野 5-1-1 文昌堂ビル 6 階

■カスタマーサービスセンター
〒110-0005 東京都台東区上野 5-1-1 文昌堂ビル 4 階

- 事業内容
- (1) 数学に関する技能検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行
 - (2) ビジネスにおける数学の検定及び研修等の実施
 - (3) 数学に関する出版物の刊行及び情報の提供
 - (4) 数学の普及啓発に関する事業
 - (5) 数学や学習数学に関する学術研究
 - (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

■ シンボルマーク

このシンボルマークは、円周率を表す数学記号「 π (パイ)」をモチーフに制作しました。「 π 」は、もっとも重要な数学定数といわれており、コンピュータの発達や宇宙開発など人類が今日に至るまで必要不可欠な数値です。また、無限に続く超越数という神秘的な数値でもあり、数学のロマンを感じさせます。

『「実用数学技能検定」を通じて、世界中の人々の生涯にわたる、数学への興味喚起と数学力の向上に貢献し、これからの未来に向けて人類の発展に寄与したい』という想いを無限の可能性を秘めた「 π 」に託し、シンボルマークとして表現しました。

この4色で塗り分けられた「 π 」は、同じ色がとなりあわないように塗り分ける数学の難問「四色問題」も意識しており、どんなに難しい問題にもあきらめずに果敢にチャレンジしていく当協会のスピリッツを表現しています。



■ 寄附について

当協会は、社会や企業が考える数学の重要性とは何かということをつねに探究し、多様な学習環境を提供することが1つの使命であり、日本のみならず世界中のすべての人々の数学への興味喚起と数学力の向上を図る活動をさらに活性化・発展させるため、多くの方々から寄附金を募ることにいたしました。当協会の公益目的事業の活動にご理解とご賛同を賜り、ぜひ寄附をお寄せくださるよう、心からお願い申し上げます。

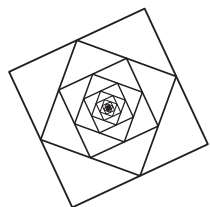
なお、皆様からお預かりした寄附金につきましては、当協会の「寄附金申込要領」に則り、有効かつ適切に管理し、使用させていただきます。

■ SDGs についての基本方針

当協会は、数学の学習指標となる数学検定事業を中心に公益的な事業を運営しています。そのなかで、世界中の人々の生涯にわたる数学への興味喚起と数学力の向上につなげるための取り組みを進めています。この取り組みはまさにSDGsの目標の4にある「質の高い教育をみんなに」に合致するものですが、その先にSDGsのすべての取り組みを論理的に捉え、その課題解決へとつながるようにしなければなりません。

数学はこれまで、人類の発展に大きく寄与してきましたが、さまざまな課題が生じている現代社会において、数学をどのように寄与させていくかが重要なポイントです。そのためにも、数学の実用性を示し、数学をより良く活用していただける人づくりに貢献していきます。





$$= \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{16} + \dots = 1$$

「数学とは、異なるものを同じものと見なすアートである」 ポアンカレ(数学者)

"Mathematics is the art of giving the same name to different things." Poincaré

お問い合わせ先

[団体受検に関するお問い合わせ]

TEL: 03(5812)8341 / FAX: 03(5812)8345

[個人受検に関するお問い合わせ]

TEL: 03(5812)8349

[広報・報道に関するお問い合わせ]

TEL: 03(5812)8342

[その他のお問い合わせ]

TEL: 03(5812)8340 / FAX: 03(5812)8346

〈電話によるお問い合わせ時間〉 月～金 10:00～16:00 (祝日、年末年始、当協会の休業日を除く)

URL >>>>>> www.su-gaku.net

Twitter >>>> [数検 twitter.com/sugaku_net](https://twitter.com/sugaku_net) [ビジネス数学 twitter.com/sugaku_biz](https://twitter.com/sugaku_biz)

Facebook > [数検 www.facebook.com/sugaku.kentei](https://www.facebook.com/sugaku.kentei) [ビジネス数学 facebook.com/sugaku.biz](https://facebook.com/sugaku.biz)

LINE >>>>>> @suken



公益財団法人
日本数学検定協会
The Mathematics Certification Institute of Japan



PR01-2301